

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400248		
法人名	株式会社 エーアイエム		
事業所名	グループホーム 縁ゆくり		
所在地	秋田県大館市字桜町35		
自己評価作成日	平成28年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で生活をするという点を重視し、地域の行事への参加や見学、地域の行事に合わせた活動を施設内で取り入れるようにしています。季節の行事や食事も積極的に取り入れ、五感で季節を感じる事ができるように配慮しています。利用者の方々が行きたい場所やしたいこと等をお聞きし、可能な範囲の中で外出や活動として取り入れるように取り組んでいます。本人の希望に沿って個別判断に力を入れています。

また、提携医療機関が同一敷地内にあることで、普段の利用者の方々の様子についての情報共有をスムーズに行うことができ、利用者の方々の医療的なケアを手厚く行うことができていると考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の一員としてホームが認知されるようにと、実に多くの交流の機会をホーム側が率先して実行している。近隣住民に普段のホームの生活を理解してもらえるよう、まずは年2回発行の「ゆくり通信」を町内の各家々に配布している他、ホームの一室を交流室と銘打って、地域に開放している。利用者個々の誕生会に「個別サービス」を実施しており、個々の好み、例えば本屋だったり、すし屋あるいはコーヒー店、風呂屋等に個別に出かけることで、今までにない嬉しい表情を引き出すことが出来たとのこと。利用者個々の特質を把握し、ホームにおいてその特技や個性を發揮できるように特に配慮していることが感じられた。アットホームで話しやすい雰囲気のあるホームであり、スタッフの気づきやヒヤリハット報告を改善のためのヒントと捉え、全スタッフがより良いホームにしようとして取り組んでいる。ホームにおいてその特技や個性を發揮できるよう、利用者個々の特質を把握し、反映させており、「利用者の心身機能の現状維持のために出来る事をしましょう！」との施設長の言葉が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感謝・まごころ・笑顔を理念とし、玄関に掲げています。戦争を体験し、貧しい時代から今を作り上げてくれ、またこの施設を選んできたことに対しての『感謝』『まごころ』で接しています。また、『笑顔』の溢れる居場所であるよう職員全員で日々の実践につなげています。	簡略化しないと伝わらないことを念頭に、設立当初に施設長・管理者・介護支援専門員の3者で要約し作成した理念「感謝・真心・笑顔」は、日常の支援や行き詰った時の立ち返るべき指標として、ホームの全スタッフに深く浸透している。ホームパンフレットの表紙やホームの玄関等に掲げられていることが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公共施設への散歩や地域のお祭り等へ積極的に参加しています。	地域の行事である八幡神社祭典・大文字祭り・神名社祭典・大館市子供会大会や近隣の小学校との交流等々、設立後数年しか経過していないこともあり、地域の一員としてホームが認知されるように、実に多くの交流の機会をホーム側が率先して実行している。祭りの山車を近くの公民館で昼休憩することを知り、昼前にホームに立ち寄ってくれるよう交渉した結果、ホームの駐車場で2曲を披露してくれ、駐車場にホームの椅子を並べ、利用者が懐かしい地域の山車を満喫できたとの事例も確認できた。小学校の運動会には全利用者が参加できるよう車で何度も往復したとのこと。近隣住民には思った程ホームの実情が伝わっていないことを察し、普段のホームの生活を理解してもらえよう、まずは年2回発行の「ゆくり通信」を町内の各家々に配布している他、ホームの一室を交流室と銘打って、地域に開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	グループホーム便りにて認知症に関する情報等の提供を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行政、包括、家族など多角的な視点から意見交換を行い、利用者の生活向上につなげています。ビデオや写真で施設の様子を見ていただき、具体的な課題の検討を行っています。	家族同士のふれあいの場の必要性が取り上げられ、7月の家族交流会には1ユニットでありながら、遠方からの参加も含め、23名もの家族の参加につながっている。火災や地震以外にも、水害対策の必要性についても話題に挙げている。家族代表より、外出の機会を数多く提供していることに対する感謝の意も確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市福祉課職員や包括の職員が運営推進会議の委員として参加し、情報交換をしているほか、施設の運営、利用者の小さなことでも相談できる関係であります。	包括支援センターより、インフルエンザ予防接種に関連し、感染症対策の重要性について、アドバイスいただいたとのこと。生活保護担当者との連携を密にし、互いに顔の見える関係性を重視している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を開け、自由に入出りすることができる環境を整えています。センサーを取り付け、安全を確保しながら見守りをするように心がけています。	夜7:00頃～朝7:00頃までは玄関を施錠しており、他の時間帯は開放している。身体拘束排除に向けた外部研修に参加し、内部研修として内容を全スタッフに伝達後、資料を回覧し捺印することで周知を徹底している。身体拘束排除マニュアルが整備されており、現在対象者はいない。	身体拘束排除マニュアルに「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書や経過観察・再検討記録」等の必要な様式を整備するよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する情報の提供、外部研修の情報提供を行っています。外部研修の中で高齢者虐待について学び、情報の共有も行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では成年後見制度等を利用されていらっしゃる方はいません。成年後見制度等について学び知識の共有を行っていききたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際には書類を用意し、口頭での説明も行い、同意をえています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際に利用者の方々の様子をお伝えし、ご家族のお話をうかがうようにしています。また、年2回、ゆったりとお茶の時間を持ち、利用者の方々のお話を伺い、利用者様の意見を取り入れる仕組みづくりをし、運営に反映させています。	前回の外部評価結果を踏まえ、訪問された家族へ必ず声掛けをし、互いに情報交換をし、より一層の信頼関係の構築に努めている。気分転換を兼ね、利用者が好きなカップや好きな飲み物を自由に選ぶ「茶話会」を実施することで、リラックスした本人の口から様々な要望や感想を引き出す機会としている。また、家族同士が互いに知り合い、よりホームを理解してもらえるよう毎年「家族交流会」を企画し、参加者が共同作業を通じ、仲間関係を構築できるよう工夫している。昨年の家族交流BBQに参加した家族から「良かった、気持ちを分かってくれる人と会えた。楽しかったし、おいしかった。本人が一番食べていた。」との感想が確認できた。	重要事項説明書の相談苦情の受付窓口に、「秋田県国民健康保険団体連合会」を追加するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事等の後には振り返りを行い、その場で出た意見を次回以降に反映させるようにしています。また、スタッフ会議を定期的に行い、それぞれの意見を出し合うようにしています。	アットホームで話しやすい雰囲気のあるホームであり、スタッフの気づきやヒヤリハット報告を改善のためのヒントと捉え、全スタッフがより良いホームにしようと取り組んでいる。おせち料理の中身について話し合ったり、利用者と共に作るたこ焼きパーティーやかかるた大会・卓球を楽しむよう提案したり、業務の効率化を話し合ったり。「利用者の心身機能の現状維持のために出来る事をしましょう！」との施設長の言葉が印象的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算にて処遇の改善に努めています。各職員の経験に応じて、外部研修の機会を提供し、キャリアアップを応援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務としての外部研修を予定したり、内部研修として医療関係者による研修を行っています。また、外部研修もスタッフ会議での情報共有や紙面による情報共有を行い、研鑽を積める環境の提供を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ認知症対応型共同生活介護を運営する事業所を訪問し、お話をうかがうことができました。また、包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携、医療・福祉機関との連携を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人のお話をうかがい、入居直後は特に配慮し、注意して様子をうかがい、お話をうかがうようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族からの話を丁寧にうかがう機会を持ち、入居前からの関係づくりに努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々の得意な家事をお願いし、部屋にひきこもりにならないよう声掛けをしながら、掃除や料理、洗濯物干し等を共に行うようにしております。行事の際にはきりたんぽやおにぎり等を作ったいただき、普段でもホットケーキやお好み焼き等、エプロンをかけ共に作り、食べることを楽しんでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月、利用者の方々の様子を手紙でお伝えしており、年に一度、家族交流会(バーベキュー会)を持ち、普段話せないことなども話せる場を持ち、交流をはかっています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	市日やスーパー、馴染みの床屋、美容院等これまでの生活継続ができるよう支援している。地域の祭り等に積極的に参加し、昔を振り返り懐かしんだ、地域との接点を持ち、地域での生活の継続を図っている。	利用者の殆どが地元の方で、取り壊しが予定されている140年以上の歴史を持つ百貨店「正札竹村」のシンボルマークを見に行ったが、懐かしさのあまりに感激する利用者の様子を伝えて頂いた。個々の利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めていることが確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用される方々の心情に配慮し座席や環境を整え、交流がしやすい環境づくりができるよう取り組んでいます。お部屋で1人になりたがる利用者にも声掛けし、ホールに来ていただき、会話と通じてコミュニケーションが図れるように支援しております。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退去等の際にもご家族や地域包括支援センター等と連絡をとりあい、その後のご本人のためにできる限り取り組ませていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用されている方々のお話をうかがいながら、活動を組み立てています。また、折に触れ、行きたい場所やしたいこと等をうかがい、可能な範囲の中でご希望に添えるよう取り組んでいます。年に2回お茶会を開き、利用者の方々の意向をくみ取れるよう努めています。	利用者個々の誕生会に「個別サービス」を実施しており、個々の好み、例えば本屋だったり、すし屋あるいはコーヒー店、風呂屋等に個別に出かけることで、今までにない嬉しい表情を引き出すことが出来たとのこと。正月のホームでのお茶会では、茶道の経験者による抹茶たてや華道経験者による生け花、本格的にとまでは支援できない現状に少々不満ながらも、実は披露したことを喜んでいた様子。利用者個々の特質を把握し、ホームにおいてその特技や個性を発揮できるように特に配慮していることが感じられた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報(これまでの暮らしのこと等)をしっかりと把握して日々の生活や活動に取り入れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りを通しての理解、介護記録を通して職員間での状況の共有を行い、一人ひとりの利用者の方々の状況把握に努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	折に触れご家族や利用者、現場職員の意見を反映し、モニタリング、サービス担当者会議を定期的開催しております。情報交換を行い、意見を出し合い、一人ひとりの現状に即した介護計画を作成しております。また、記録、基本情報、介護記録等をプライバシーに配慮しながら職員がいつでも閲覧しやすい環境の整備を図っています。	前回の外部評価結果を踏まえ、ケアプラン関係書類を利用者個々のケースファイルにとじ込み、日々スタッフが確認でき、常に見えるように改善している。利用者個々の介護計画に、配膳や食器拭き、洗濯ものたたみ等ホームにおいてその特技や個性を發揮できるよう、利用者個々の特質を把握し、反映させるよう取り組んでいる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についての介護記録を作成し、職員間で情報共有を行っています。スタッフ会議やモニタリング等で意見要望を出し合い、情報共有をベースとしながら、介護計画の見直しを行っています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や見学、近所のお店や公共施設への見学を行い、文化に触れる機会があります。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望や専門的な治療については、これまでのかかりつけ医を受診することができ、事業所でも対応している。同一敷地内の医師も事業所の経営に関わっており、日々、往診、また利用者の状態把握を行っている。夜間も医師から指示を受けることができ、速やかな対応が可能。連携を密に行い、いつでも相談できる体制を構築しています。	日中は非常勤の看護師、夜間は同一敷地内の医師が協力してくれる体制にあり、必要に応じ往診も可能とのこと。インフルエンザ対応や健康診断を含め、利用する側にとって非常に心強い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から看護師との情報交換を行っています。また、年に1度は看護師を講師とした感染性疾患等の研修を行っています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には病院を訪問し、病院関係者との情報交換を行い、今後について話し合いをもつ等、連携を行いました。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化の際の対応について書面と口頭で説明をしております。医療関係者との連携も図り、可能な限り対応しております。	看取りについて入居時に説明しているが今まで該当者はいない。近い将来に向け、今後の検討事項として、重度化や終末期に向けたホームとしての取り組みとその方針を検討していきたいとのこと。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成しています。緊急時の対応についてはすぐに目に入る場所に掲示しています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備し、年2回利用者と共に火災や地震等を想定した避難訓練を実施しています。消防署の協力を得て、避難経路の指導や消火器の使い方等実効的、実践的な訓練となっています。防災頭巾等も作って備えています。	AEDの取り扱い訓練には利用者も参加し、興味を持ってくれたとのこと。外での消火器による消火訓練については近隣にチラシを配布し参加を呼び掛けたが、冬期に住民の参加はなかったが、今後につなげたいとのこと。防災頭巾を利用者と共に手作業で全員分作成したとのこと、見せて頂いた。おおむね3日分の備蓄も確認できた。指定の避難場所は近隣の公民館。幸い地域一帯が高台であり、水害の可能性は低いとのこと。避難訓練から、思わぬところの段差が避難誘導時に障害となることを発見できたとのこと。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活背景を考え、その人らしい尊厳を保てるよう敬意を払い、プライバシーに配慮した言葉かけを行っております。	個人情報使用同意書に写真の使用についての欄を設け同意いただける項目をチェックできるよう工夫している。スタッフが居室に入る際は、必ず本人に声掛けし、同意を得ることが習慣化されている。プライバシーの配慮に向けた外部研修を受講しており、全スタッフに内部伝達研修で周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れ利用者の方々に行きたい場所やしたいことを伺い、可能な限り対応をさせていただいています。また、個別サービスとして、その方の誕生日に行きたい場所等を決めていただき外出する機会を設けております。また、ゆつくりお茶会で意見、要望をお聞きしております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々のペースや望まれる過ごし方に応じた支援を行っています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の方々のおしゃれや身だしなみの支援を行っています。外出の際には外出の声掛けをし、季節に合わせた服装やおしゃれに気を付けた服装を選ばれるよう支援をしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内にも小さな畑があり、種うえや草取り等をして、自分たちが作った野菜が食卓に並ぶこともあります。利用者の方々の希望を献立に反映させたり、季節を感じる食事(山菜、菜っ葉の味噌汁、きりたんぼ、ハタハタ等)を提供し、楽しく食事をしていただけるよう努めています。 野菜切り、盛り付け、配膳、片付け等で利用者の方々と職員と一緒に取り組んでいます。	お花見、土用の丑の日の鰻丼、キリタンポ作り、家族交流BBQ、七夕・十五夜・お月見・ハロウィン・クリスマス・年越し・正月等々、ことあるごとに季節の移り変わりや行事に合わせ食事を楽しめるよう工夫している。外注のお花見弁当等、いつもと違う入れ物に装われることが利用者の食欲を増進させ、楽しい食事につながっているとのこと。畑では、大根・枝豆・えんどう・大葉・イタリアンパセリを収穫したとのことで、当日の昼は乾燥したイタリアンパセリを堪能できた。プランターで、ミニトマトやナス、ピーマンを育て、食卓を彩っている。山菜の下ごしらえは利用者のお手の物。栗は本年度豊作だったとのことで、利用者は食べることより拾うことに夢中だったとのこと。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量について毎回記録し、常に確認を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の方々に合わせて、声掛け、見守り、一部介助等による口腔内のケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるように支援を行っています。排せつの間隔があていれば、何気なく声掛けをし、回数が多ければ様子観察をして受診に繋げたりと体調により援助内容を変えて、自立にむけた支援を行っております。	9名の利用者の一日分の排泄表(チェック表)を採用しており、マーク方式で効率的に記入するよう工夫され、必要に応じ手書きで簡潔に記載し、スタッフが共有できるよう配慮している。夜間のみパット交換の方が1名、同じく夜間のみポータブルを利用している方が1名であるが、いずれも排泄の自立に向け検討を重ねた結果であり、今後も経過観察により方向性を検討する体制にある。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事を心がけ、運動・体操も行い、排泄について利用者の方々の状況把握に努めております。水分補給にも努め、便秘気味の方については医療機関にも相談して対応しております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっていますが、状況に合わせて対応しております。利用者の方々の満足を重視し、ゆっくりと会話を楽しみながら入浴できるように支援しています。	午後3名入浴できるよう取り組んでおり、その日の気分や体調に合わせて、最低でも週に2回は入浴できるように調整している。あったかい湯に先に入りたい方、ぬるめの湯にゆっくりとつかりたい方、その日の気分で入浴を拒否する方等個々の好みに対応できるよう順番を工夫したり、入浴剤を活用したり、様々な工夫を駆使し、入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏場はエアコンを随時使用し、室温調整をしております。冬季の間は入眠前に電気あんかを利用したり、温かい環境に配慮し、安眠することができるよう取り組んでいます。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師との連携を密に行っています。薬の変更等があった際には様子を伝えたり、薬の効果、副作用についての情報をいただいています。「薬に関する質疑応答会」として、薬剤師を講師として質問を出す形での勉強会も開いています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事をしていた利用者の方には畑での野菜の種まき、水やり等を行っています。また、市への買い物等、利用者の方々からのご希望にできるだけそうとができるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣にある図書館や文化会館等への散歩に出かけたり、催し物を等を楽しむ機会がある。花見、銀杏拾い、お茶会、子ども会大会、秋祭り等季節を楽しむことができるよう取り組んでいます。日知用品や消耗品の購入など買い物の声掛けを随時行っています。	散歩はもちろんのこと、地元の各種催し物には必ずと言っていいほど出かけており、祭典や敬老会、子供会や運動会、あるいはお花見等季節の外出に積極的に出かけている。利用者個々の誕生日会に実施している「個別サービス」は、正に普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、支援している証である。昼食を兼ねて家族と外出したり、正月に帰省される方も確認できた。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望でご自身で管理される方、施設で預らせていただいている方がいらっしゃいます。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望がある際にはご家族から同意をいただいた方へ電話をしていただいたり対応をさせていただいております。見守り携帯を使っている方もいらっしゃいます。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の場所については視覚的にも分かりやすいように配慮をしています。 掲示物等でも季節を感じるができるように取り組んでいます。また、においや温度等も過ごしやすい様に気をつけて対応しています。	冬期だというのに、ホールに本物のハイビスカスが一輪誇らしげに咲いており、驚かされた。温度や湿度をこまめに調整していることが伺える。3か所あるトイレに1番・2番と大きく表示しており、トイレに関する情報交換の際に、分かり易いようにとの利用者からの希望で番号を付けたとのこと。共有空間はこげ茶をベースにしており、落ち着く感じがした。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際に利用するテーブルの他にソファと机を用意し、一人でも、複数でも過ごせるような居場所を用意しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、カーテン、洗面台以外は自宅で利用されていた家具等をご持参いただき、ご家族の協力のもとそれまでの生活を意識した部屋作りをしています。	各居室の壁紙やカーテンの色が異なり、同じような作りなのに、全く別の雰囲気を出している。できる限り利用者本人の希望で居室を選択できるよう配慮している。常時、居室の清潔保持に努めており、不快な臭い等は一切感じられない。洗面所は車椅子で入れる高さを採用し、立位での使用に考慮し手すりも確認できた。2名の方が位牌を持ち込んでおり、7名がテレビを備えている。殆どはホールでの視聴が現実とのこと。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべてバリアフリーとなっており、廊下や浴室には手すりを設置し、安心して生活できる環境となっています。		